



わたしの思い出の一冊・・・わたしのワンピース

ルルランルランかわいらしいうさぎの子どもが、いろいろな模様のワンピースを着て登場してきます。我が家に2人目に娘が生まれた時、こんなワンピースが似合う女の子になればと願い、何度も読み聞かせていました。今年10月に出産予定の娘が、生まれる子どもの為に本屋の絵本コーナーで見つけた“わたしのワンピース”『おかあさんによく読んでもらってたなあ』と懐かしく思ったと語ってくれました。仕事に追われ、毎晩の読み聞かせは唯一大切な時間であり、保育園で一日頑張ったわが子へのごほうびでした。

時代をこえて、生まれて来る孫も“わたしのワンピース”好きになってくれたらなあとしにしています。(今はおばあちゃんのT)

私の子育て奮闘記として、絵本との素敵な出会い、エピソードを教えてください。どなたにも思い出の一冊がおりでしょう。楽しみにしています。

夏休み期間中は、開館時間が延長されます。
7月21日(土)～8月31日(金)
午前9:30～午後6:30

図書館定例行事

〇お話し会：毎週土曜日の午後

2時から約40分程

読書ボランティア会員による本の読み聞かせやミニ映画の上映

喜界町図書館では、小学生・中学生の調べ学習やクラス単位、学校単位での団体貸し出し、図書館訪問受け入れ等保育園、幼稚園、小学校、中学校・高校等と連携を取りながら、子供たちの成長のサポートをしています。

《 幼 稚 園 ・ 保 育 園 編 》

5月31日(木)のぞみ幼稚園の子どもたちが、図書館訪問で来館！園児14名、引率の先生4名！絵本コーナーでたくさんの絵本の中から好きな本を選んだり、図書館職員の読み聞かせ・ミニ映画等を楽しみました。大変元気がよく、図書館職員のはなしをちゃんと聞くことができました。図書館を身近に感じてもらえたことでしょう。「バスに乗って来たんだよ～公民館でお弁当食べて帰るよ～」・・・今度はおかあさんと一緒にきてね！

8月ミニ映画予定

4日 こぎつねの交通安全

11日 トイレの花子さん

18日 おばけ屋敷

25日 幽霊屋敷

図書館カレンダー(8月)

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※ は、休館日です。

開館時間 午前9:30～午後6:30

休館日 月曜日、毎月第1木曜日

4/18(水)54名、5/8(火)59名、5/23(水)58名、
5/25(金)25名、6/6(水)56名、7/3(火)59名の
ひまわり第一保育園ぞう組・きりん組来館！
クラス全員で歩いて来ました。人数確認と安全に気を配りながら・・・
あひるの行列さながらのかわいらしさです。
選んだ絵本を一人ずつカウンターで借りる練習もするんです。
「お願いします」「ありがとう」こんな繰り返し優良図書館利用者を育てます。先生方の奮闘に心からエールを送ります。どうぞ毎週でも御利用下さい。

5/30(水)、6/27(水)子育て支援センターひまわりの親子12組が来館しました。おかあさんにだっこされても大切なお客さんです。楽しんでもらえたかな・・・。

《文学散歩②⑦》～与論島と森 瑤子～

かつて、作家・森瑤子^{もりようこ}の著書が喜界町図書館に30点所蔵され、多くの町民に読まれた履歴が残っています。(現所蔵13点) 与論島の観光案内等には、地図に「森瑤子別荘と墓」(先月号で紹介した山口誓子の句碑「冬も青 離れは神饒の棚なるよ 誓子」の南、約500mばかりの道路沿い)と示しており、「与論島で作品を執筆した森瑤子が永眠する」と紹介されています。

フリー百科事典 Wikipedia によると、森瑤子(1940～1993)は1980年代に活躍した小説家です。本名は伊藤雅代で、静岡県伊東市生まれ。父の仕事の関係で4歳まで中国で暮らし、終戦直前(1945年3月)に日本に戻りました。6歳からヴァイオリンを学び始め、小学生時代に世界文学全集に親しみました。母親は国際交流に積極的で、アメリカ、ドイツ、カンボジアなど世界各国の留学生を自宅に受け入れました。1959年(昭和34年)に東京芸術大学器楽科に入学し、フランス文学に傾倒。ヴァイオリンへの興味を失い、卒業後は広告代理店に勤務しました。1964年、イギリス人と知り合い結婚(24歳)。

1977年(昭和52年、37歳)、版画家・池田満寿夫が『エーゲ海に捧ぐ』で芥川賞を受賞したことに刺激されて作品『情事』を書きました。それが翌年第2回すばる文学賞を受賞し、1979年(昭和54年)に発表した『誘惑』で第82回芥川賞候補、1982年(昭和57年、42歳)『傷』で第85回芥川賞候補、1983年『熱い風』で第88回直木賞候補、『風物語』で第89回直木賞候補、と話題作を次々と発表しました。……1993年(平成5年)7月6日、52歳で永眠(胃癌)するまでの15年間に、小説、エッセイ、翻訳等100冊を超える著作を生み出しました。

森瑤子が与論島と初めて出会ったのは1987年(昭和62年)。島の人と海の美しさに心を惹かれ、翌年別荘を建て、東京と与論島を行き来しながら与論生活を楽しみました。(2012年(平成24年)3月26日(月)付け奄美新聞) 与論島を舞台にした小説『アイランド』(1988年、角川書店)は、与論島の＜羽衣伝説＞をもとにした壮大なスケールの物語です。また、『ママの恋人』(1992年、角川書店)には、男女の逢い・別れを描いた32の掌編小説(短編よりさらに短い小説)が収められており、与論島の海岸を舞台とした作品「ヨロン島プリシア・リゾート」が含まれています。(文責・積山泰夫)



森瑤子の墓→

夏休みには、図書館へ行こう!



もうすぐながーい夏休み。

忘れられない思い出が、いくつできるだろう。…まずは、「いつでも、だれとでも、何度でも」利用できる図書館へでかけましょう。夏休み期間中、おすすめ本や、調べ学習に役立ちそうな本のコーナーを設けています。自由研究にチャレンジしたり、わくわく・ドキドキ! 本の世界を旅してみませんか?

米ちゃんのおすすめの一冊

『盆まねき』 富安 陽子 著

偕成社 2011.7



なっちゃんは、小学3年生。なっちゃんの家族は、お盆になると、笛吹山のおじいちゃんとおばあちゃんのうちにでかけます。親戚があつまって、いとこたちにもあえてまるで毎日お祭りみたいです。しかもおじいちゃんやおばあちゃんがふしぎな話をしてくれるのです。(実は、おじいちゃんはおうふき名人) なっちゃんは、この夏、おじいちゃんちのお仏壇に飾られているある男の子にそっくりな子に出会います。そして、この本には、もうひとつの物語が……。

(第二次世界大戦で亡くなった俊助おじさんのお話) この夏休みに、おじいちゃん、おばあちゃんの子供の頃のお話を聞いてみてはいかが? この本ができた裏話が聞きたい人は、米ちゃんのところまで……

